

市町村立学校における働き方改革実践モデル校

詳しくは、茨城県教育委員会ホームページにてご覧ください。
茨城県教育委員会へようこそ>教育事務所>水戸教育事務所

笠間市立笠間小学校・笠間中学校の取組の紹介(6/21 学校訪問より)

教職員の超過在校等時間の削減に向けた実践研究を通して、教職員の授業の質の向上を図るための環境を創出しその成果を各学校に普及させ、本県教職員の働き方改革の実現に資するために、水戸教育事務所管内ではモデル校として笠間市立笠間小学校と笠間中学校が昨年度から工夫した取り組みを行っています。

<笠間小学校>

令和3年度の主な取組の工夫点

<笠間中学校>

1 学年定時退勤日の設定



今年度は学年で決めた曜日と時刻を設定し、職員室に掲示したことで、終業時刻を意識した計画的な事務処理ができています。

2 職員会議の廃止

伝達中心だった職員会議を思い切って廃止した。現在は、起案された内容を教務会で事前に検討した後、学年主任と教務部・管理職で構成する運営委員会で審議し、決定した内容は学年主任が伝達する。

3 夏季休業中5日間の授業日の実施

3年生以上の週時程に週1回の5時間授業日を増設する。夏季休業中に5日間の授業日を設定し、18時間を総合的な学習の時間に充てる。校外学習や体験学習を積極的に導入し、ICTを活用した学習を集中的に実施することで、質の高い学びの実現を図る。

4 学年・学級事務の見直し・改善

年度切り替えの作業を見直し、4月の平均超過勤務時間が10時間減(R元年度比)となった。ロッカーなどの表示を出席番号にし、貼り替え作業を削減。習字や図工作品などの掲示を大幅に減らし、今後は1人1台端末を活用した作品発表へ切り替えていく。さらに、教材購入を業者と保護者間で行う体制を整え、集金や集約の時間を削減。また、学年だよりをA4版にサイズダウンし、学級の週案も廃止した。

5 ICTを活用した授業改善による業務削減

1人1台端末を活用した授業改善が進んでいる。ICTを活用した教材や資料の共有化が進むことで、業務削減へとつながっている。また、笠間市で取り組んでいる反転授業の研究の継続はもとより、16時から開催される市教委主催のICT活用ミニ研修やオンライン研修に自主的に参加する教職員も多い。

1 日課(時間割)の変更

清掃と昼休みを日替わり実施し、帰りの会終了時刻を約30分繰り上げた。部活動の終了時刻も繰り上げ、退勤時刻の改善に効果的である。立案の段階で清潔な環境が保てるか不安があったが、生徒に「限られた回数だからこそ集中して取り組む」という意識が高まり、「黙働清掃」が以前より徹底した。

2 繁忙期の負担軽減

市内の学校全体で「2学期制」を本年度から導入し、成績処理や通知表等の業務の一部を夏季休業中に実施する。また、夏季休業中に総合的な学習の時間の学校外の学習活動を実施し、年間授業時数に位置付け、繁忙期の5時間授業実施に充てる。保護者には、通知文の配付や保護者会の説明で理解を得る。

3 部活動と並行して実施する放課後ミニ研修会

タブレット端末を活用した授業について、放課後ミニ研修会を計画的に実施している。部活動の複数顧問制を生かし、希望者に放課後の部活動の時間帯と並行して実施したり、録画した研修動画の視聴を都合のよい時間にしたりし、退勤時刻を遅らせることなく、ICT活用のスキル向上や授業改善につなげている。

4 反転授業を生かした授業スタイルの確立

教職員の授業の質の向上を図るために、全教職員で授業スタイル「笠間モデル」を実施している。

